

特別寄稿

OB会・近畿支部の歩み その3

前号に引き続き2005年11月から2006年10月までの活動を報告させていただきます。

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 福崎町 七種山 | 2005. 11. 26 |
| 2. 丹波 西多紀アルプス三尾山 | 2005. 12. 10 |
| 3. 高槻市 摂津峡新年会 | 2006. 1. 7 |
| 4. 台高山脈 高見山 | 2006. 2. 11 |
| 5. 箕面山 | 2006. 3. 25 |
| 6. 丹波 西多紀アルプス | 2006. 4. 22 |
| 7. 大山・三瓶山 | 2006. 5. 3~5 |
| 8. 大阪 天保山 | 2006. 6. 17 |
| 9. 大峰山脈 八経ヶ岳 | 2006. 7. 15~16 |
| 10. 綾部市 弥仙山 | 2006. 9. 23 |
| 11. 明石市雑草園(加藤邸)秋刀魚パーティ | 2006. 10. 14~15 |



2005・11月イベント

七種山PW

KUWV-OB近畿支部

とき:2005・11・26

ところ:福崎町七種山

参加者: 5期金岩、6期小川、8期篠島・節子、10期藤井、
11期加藤・智美、15期宇野、高村 合計9名



登り口・旧山門



七種滝

丹波・西多紀アルプス三尾山PW

2005・12・10 KUWV-OB近畿

参加者:6期小川、8期篠島

集合:9:00 近畿道舞鶴線西紀SA 天候:晴れ

報告者:8期篠島 益夫

今回イベントは参加常連のメンバーのスケジュールの不都合を承知しながらも、
継続実施を重視して日程を決めざるを得なかった事に加えて、参加予定者の中に
怪我による故障者が相次ぐ、というアクシデントで、活動開始以来初めての2名のPW
となりました。



三尾山東峰からの東多紀アルプス



主峰―鏡峠・三尾山主峰・西峰・東峰

摂津峡・新年会



とき:2006・01・07(土)

ところ:高槻市摂津峡・山水館

企画担当:12期・14期赤地賢一・喜久子夫妻(劇団ペンテル?)

参加者:5期金岩、6期小川、8期篠島・節子、10期藤井、島林

11期:矢崎、加藤・智美、12期赤地、14期赤地喜久子、

15期間所、高村千佳子

報告:8期 篠島益夫

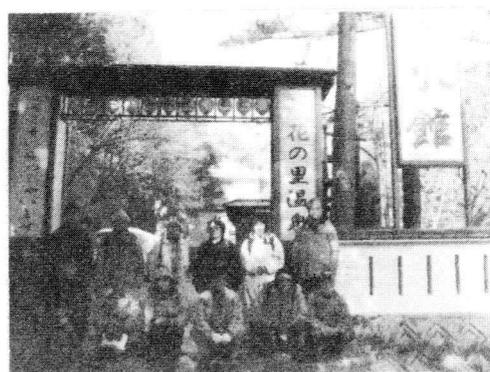
スケジュール:10:15 JR高槻駅集合 10:45-11:45 摂津

峡散策11:45-13:00 休憩・汗流し 13:00-15:45 新年会

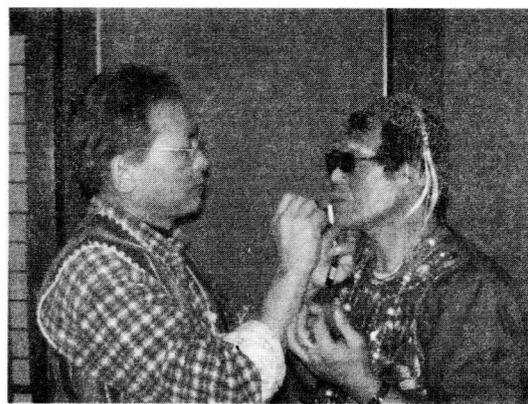
16:15 JR高槻駅解散



摂津峡



山水館



ぼたん鍋と酒を楽しむと次はカラオケと寸劇

霧氷の高見山PW

2006・02・1

盛況の1月摂津峡新年会に続く2月イベントは三重・奈良県境の台高山脈の高見山での霧氷期の登山を企画したが、阪神からは日帰り限度の距離でもあり、霧氷は天候に左右され、必ずしも巡り会えるとは限らない事、激寒期と重なる事から、参加者は限られる、との心配にも拘わらず、9名の参加を得た事は企画担当としては望外の喜びでした、幸い当日は阪神からの出発時点では雨だった天候も予報どおり、登山口では快晴に変わり標高1050m辺りからは霧氷にも恵まれて標高差820mの登り下りも気にならず、久しぶりにスカッとした山を楽しむ事が出来ました。企画・報告担当 8期 篠島益夫
参加者: 5期金岩、8期篠島・節子、10期藤井、11期矢崎・美弥子
15期間所、宇野、高村 合計9名



頂上付近の霧氷
頂上からの三峰山



高見山(1248m)頂
頂上から曾爾高原方面



箕面山PW

KUWV-OB近畿支部
実施日:3月25日(土)

参加者:5期金岩、6期小川、7期飯田、8期篠島、10期藤井、
島林、11期加藤・智美、12期赤地、15期宇野、高村 計11名

集合:箕面自然教室ビジターセンター

コース:センター—開成皇子墓—清水谷園地(昼食)—四反田谷
—鉢伏山頂上—エキスポ90記念の森—花の谷—堂屋敷頂上—
天井ヶ岳頂上(役の行者終焉地)—センター

企画担当:5期 金岩 報告:8期 篠島

今回は初参加者に7期飯田さんに向かえての実施となりましたが、一般的なハイコースというよりピークを3カ所以上確保して歩きを十分に堪能出来るという、この地域を日頃のホームコースとして今回の企画担当である5期金岩さんならではのPWでした。



センター出発前



開成皇子墓

花の丹波・西多紀アルプスPW

KUWV—近畿OB会

実施2006・04・22報告04・25

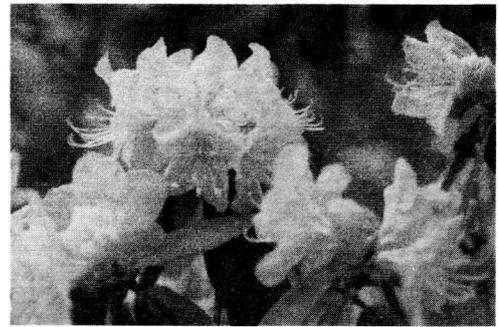
参加者:6期小川、7期飯田、8期篠島、10期藤井、11期加藤・智美、15期高村
合計7名・報告者:8期篠島(写真提供:篠島、藤井、加藤)

集合:近畿舞鶴道・西紀SA(9:10)・登山口:篠山市西紀町中山地区・天候:晴

3月初参加の7期飯田さんは今回も連続の参加で阪神組(小川、飯田、藤井)と神戸組(篠島、加藤・智美、高村)の2台で西紀SAに集結、春日ICで下りて中山地区に向かう、暖かく、好天で天気は最高、予定通り10時前の登山開始となる、この日の山は今盛りの藪椿、こばの三つ葉つつじに加えて尾根筋が近づくとお目当てのひかげつつじが満開になって現れ、縦走尾根はひかげつつじがびっしりに加えて、たむしばも、山桜も、いわうちわもと続き、鏡峠付近からはまだ盛りには早いけどどうだんつつじが沢山現れるなど、表題とおりの花のPWとなった。

下山後はワラビ摘みに興じ、ぬるめの国領温泉で汗流し後は6期小川先生の提案で「目で見ると地学研究」が加わり西紀町栗柄地区で「県道のセンターラインが分水界」と「河川争奪現象」を教授頂き、予定外に盛りだくさんのPWとなりました。

三尾山も昨年12月小川さんと私で歩いた3時間半までの同じコースを今回は6時間弱かけて花見物と野の恵みを収穫しながら楽しみ、目で見ると地学研修までやって18時半にはやっと現地解散でした。



三尾山一鏡峠の尾根・ひかげつつじ

三尾頂上一鏡峠の尾根・山桜、たむしば、ひかげ



尾根のいわうちわ



残雪の大山 と秀峰三瓶山 PW

KUWV-OB近畿支部

2006・05・03-05(2泊3日)

参加者：阪神組・6期小川、神戸組・8期篠島、11期加藤・智美、15期宇野、
高村千佳子、松江組・10期白石淑子、金沢組・15期舟田節子 合計8名
企画・報告：8期篠島 益夫

コース：

3日 天候快晴 7:50篠島宅、8:30加藤宅出発、篠島車(小川、篠島、宇野、高村、
舟田5名)、加藤車(加藤・智美、手織ドライバー)、14:30島根県大田市三瓶町
志学口・湯元旅館集合、15:00小豆原埋没林公園、16:15県立三瓶自然館、
17:30浮布池、18:00西の原・定め松、18:30三瓶温泉・湯元旅館

埋没林公園は3000年前の噴火で埋まった林が発掘されたもので杉の巨木が圧巻で見所が多い、
自然館は三瓶の野山の自然を解説、紹介したもので岩石標本が勉強になる、埋没林もここでは人工的に
再現されていて見所が多い、役所でやっても見所が多いのがこの2つの施設の良いところか。
湯元旅館は38度の源泉かけ流しの湯であるが、かなりぬるめの湯であり、出た後に温まる感じ、料理は
食べきれない程のメニューとボリュームであった。(湯元旅館TEL0854-83-2215)
会食後はせつちゃんの解説でヒマラヤ紀行をPCとワイドスクリーンを使って堪能しました。

4日 天候快晴 5:30起床、8:05湯元旅館出発、8:20東の原リフト乗り場着、
8:40太平山鞍部リフト降場、8:50太平山頂上、9:20女三瓶山頂上、
10:10男三瓶頂上小屋、10:40男三瓶頂上発、11:50子三瓶山頂上着(昼食)
12:30発、13:15孫三瓶頂上、13:45室の内池西端14:00東端、
14:35太平山鞍部リフト乗場、15:00東の原リフト降場、16:20国民宿舎さんべ
荘で汗流し、18:30大山寺駐車場、18:45宮本旅館

9時からのリフトを旅館からの交渉で8時半から動かしてもらい三瓶山火口縁の太平山鞍部までリフトで登り、ここから数分の太平山に登り、火口縁の山々を時計の逆周りに一周する計画でスタートする(太平山一女三瓶一犬戻し一男三瓶一扇谷一子三瓶一風越峠一孫三瓶一奥の湯峠一室の内池一太平山鞍部)。

火口縁の尾根に出ても好天過ぎて少し巻き道に入ると風通りがなく、暑く感じる、花に恵まれて

いる山ではないが、カタバミ、スミレはどこでも多く、尾根筋ではやまると、きらんそう、きじむしろがみち、弧三瓶頂上付近では葉が出ていないのに赤紫の大形の花が目立つ曙スミレが、風越峠から火口原に下るコースではみつばつつじが花の盛りで、えいざんスミレが目立ち、火口原では、まむしぐさ、やまどりぜんまい、えんれいそう等に会った。

汗流しは国民宿舎さんべ荘で済ませ、石見の地から一路、出雲經由大山寺へ、三刀屋からは高速に入り出雲路も走りやすくなったものだ。18時半には大山の展望100パーセントの黄昏の大山寺駐車場に到着、記念撮影の後、宮本旅館に入る。

ここは部屋は男女別室、お風呂も別であった。

5日 天気快晴 6:00起床、7:00宮本旅館出発、7:40・2合目付近少休止7:50発、8:10・4合目少休止8:20発、8:50・6合目休憩9:05発、9:40・8合目付近着9:55発、10:15大山頂上(弥山1711m)大休憩・昼食・三角点往復11:30発、12:15・6合目着12:30発、13:00行者道經由元谷13:15発、13:30大神山神社13:50宮本旅館・汗流し・ざるそば、15:00宮本旅館発、18:00せつちゃん西明石駅

この日も最高の天気に恵まれて5合目から残雪の目立つ夏山登山道で弥山頂上を目指す、道の整備はまだ殆ど手がつけられていないが10年余り前に比べると極めて良好だ、お陰で登り3時間、下り2時間はコースタイムを完全にセーブ出来ている、今回は登山口でなく旅館からの時間のカウントだし、下りは回り道になる行者道で元谷へ出ているがそれでもコースタイム以内に納まっていたのには我ながら感心、せつちゃんには元谷や金門からの大山眺望も楽しんでもらう事が出来た。今日のメンバーは娘さんに合流した加藤夫妻と早朝に松江に引き上げた白石さんの3人が外れていたが、このコースは流石に山陰NO1の人気コースだけに登山道も頂上も人が多く、減員した寂しさを感じないでも済んだが、昨年と同じ時期の東大山PWとは何という違いか、とびっくり。それだけに同じ大山でも東と西では随分なイメージ違いだ。

5日・大山(弥山1711m)登山



宮本旅館



大山6合

大山9合目付

弥山頂上



宇野送別・天保山PW

2006・06・17実施、企画11期藤井・12期赤地、報告8期篠島

参加者

5期金岩、6期小川、8期篠島・節子、10期藤井、11期畔山・知栄子、
加藤・智美、12期赤地・喜久子、15期宇野、高村千佳子、金井
(送別会のみ参加・10期島林、11期矢崎)

合計16名

集合・解散

JR桜島駅10:00集合、高島屋19:00解散

コース

JR桜島——桜島渡船場——天保山渡船場——天保山2等3角点——
天保山公園——地球深部探査船ちきゅう号・船内見学——天保山マーケット
プレイス——通天閣——本町上海新天地マーケット——香港楼——難波高島屋
(KUWV—OB中村元風氏・作品点)

イベント概要

6月企画は7月に東京に異動する15期宇野さんの送別会を兼ねていたのでPW
は2等三角点天保山から街をウォークするものであったが途中から雨も加わり
地球号船内見学も含めると約4時間の街歩き(渡船、地下鉄含む)となった、
送別会場、楽しいイベント、余興の準備など今回の企画は山企画では使わない
知恵を絞って頂き演出をして頂きました、企画担当の藤井さん、赤地さんには
大変ご苦勞をお掛けいたしました、お陰で素晴らしい送別の宴と参加者のリフ
レッシュが出来たと思います。



左・仮装・センターは宇野さん



上・仮装の加藤夫妻

下・香港楼



左・香港楼



幻の名花・おおやまれんげ & 近畿の最高峰・八経ヶ岳 PW

実施：2006・07・15-16 報告：8期・篠島益夫

参加者：6期小川、8期篠島・節子、10期藤井、島林、11期加藤・智美、矢崎、森川、
15期高村 合計10名

集合：R309 林道・行者還トンネル西口駐車場 神戸組 9:20 着、阪神北摂組 10:45 着

コースタイム (7月15日)：11:15 昼食後西口登山口出発ー13:15 弁天の森ー13:50 藤井・しょうき蘭発見ー14:20 聖宝の宿跡ー15:35 おおやまれんげ発見 (H1750m 地点)ー15:45 弥山小屋到着オオヤマレンゲ自生地探勝 16:00ー16:55

(7月16日)：頂上ウオーク 6:35 弥山小屋出発ー7:05 八経ヶ岳頂上・休憩ー7:50 弥山頂上ー小屋 8:00 下山 8:15 小屋出発ー9:00 聖宝の宿跡 (小休止)ー9:45 弁天の森 (大休止)ー11:10 奥駈出会 (小休止)ー11:45 行者還トンネル西口駐車場

企画担当：10期・島林仁司

概要：実施日の前後が殆ど雨や大雨だったが、15、16日は最高の天候に恵まれ、昨年は大雨で断念したこの企画も2年ぶりで実施できた、登山口駐車場確保の為、早めに神戸を出た神戸組の車は神戸から約3時間後の9:20頃に西口に到着したが、不安の中で駐車場が満杯、かなり下の道路わきに確保したものの、ここから西口登山口への折り返し登山が思いやられたところ、西口に残した女性陣が下山者の車を探し当てて確保してくれたので登山口の前に駐車場が確保出来た事もラッキーであった。企画者の島林さんがこの方面に詳しい事、事前調査登山をしてくれてくれた事、頂上付近の小屋泊を入れていた事もあり、ゆっくりしたペース配分で自然を楽しみながらの山行きとなった。特に日本最多雨地の大峰山系の山は樹林が深く、聖宝の宿跡辺りからは下草の羊歯類や苔類が地面をいろどり、外の山では味わえない緑濃い登山道を楽しむ事が出来た。弥山小屋近くなるとこの山の魅力の頂点であるオオヤマレンゲも見え出し、今にも降出しそうな夕立の気配のなかを最後の急登を過ぎると小屋が見え、小屋に着いたとたんに堰を切ったように夕立が降り始めたがその時は全員が小屋の中におり雨には逢わずに済んだ、大休止と雨上がりの後、小屋を出て八経頂上方向のオオヤマレンゲ自生地へ向かった。雨上がりの鞍部の広い自生地まで10分ほどで到着、花盛りのオオヤマレンゲを楽しんだが、植物園などで見る栽培種よりも雄蕊の色が違い、葉、花とも少し小さめで可憐であった、この付近はサンカヨウ、カラマツ草も多い。



トンネル西口登山口



ショウキラン



八経ヶ岳頂上

オオヤマレンゲ

翌朝はこの先をさらに10分程進んで八経ヶ岳頂上へ、残念ながらガスで視界は不良であったが頂上に近い自生地を楽しむ事が出来、大満足で下山開始、小屋からは登りの逆コースで3時間半で西口駐車場へ下山した、最後の奥駈出会いからの急降下はこんな道を登ってきたのか、とびっくりするほどの急降下であったが、この登り1時間余りを下りはほぼ半分の30分余りで下った事になる。下山後は2台の車に分乗して黒滝村森物語園地へあせ流しと昼食の為に下山し、午後3時半過ぎに現地解散して帰路につく、神戸組は18時半ころには自宅に帰着。



弥山小屋の前にて



小屋の横にある国立公園の看板

弥山小屋と苔の歩道



行者還トンネルへ下山、お疲れ様



綾部市弥仙山PW

KUWV-OB・9月イベント

2006・09・23実施OB会近畿支部

参加者:5期金岩、6期小川、8期高水間淑子、篠島・節子、10期藤井、
11期加藤・智美、畔山・知栄子、12期野村、15期高村千佳子 合計12名
企画担当:10期藤井(現地案内は12期野村)報告:8期 篠島益夫
コースタイム〔金岩作成〕

弥仙山(丹波富士)登山コースタイム(平成18年9月23日(土)晴)

登山者:小川、篠島夫妻、高水間、加藤夫妻、
畦山夫妻、藤井、野村、高村、金岩

日付	時刻	場所	標高	備
9月23日(土)	7:10	モルール少路駅発		藤井氏の車で出発(豊中駅、空港線下、山 幹、尼室線)
	7:55	小川宅発		尼室線北上、宝塚ICから中国道へ
	9:35	JR梅田駅着		綾部安国寺ICで一般道へ。
	9:55	JR梅田駅発		篠島車、高水間車、野村車、畦山車と合流
	10:20	登山口着	210	野村氏によるコース説明、各位自己紹介後、 気候体操をして出発
	10:35	登山口発		
	10:55	小休止		
	11:00			
	11:05	大本教開祖修業 の滝		
	11:10			
	11:20	於成神社		(オナリジンジャ)
	11:25			
	12:00	弥仙山山頂	664	昼食
	13:00			登山口からの実動時間:1時間15分
	13:30	小休止		
	13:40			
	14:00	目置谷への分岐		通過
	14:30	林道に下る		林道途中でミョウガ採取
	15:00	登山口へ下山		山頂からの実動時間:1時間50分
	15:10			
	15:50	光明寺二王門駐 車場		国宝二王門観光
	16:20			
	16:25	あやべ温泉		入浴(¥500)、休憩等
18:00				
		帰宅	郡屋工場街見学後、綾部IC経由で帰阪	

KUWV-OB近畿支部

グルメと交流とウオークで充実の

秋刀魚パーティー

実施2006・10・14-15

概要

2003年(平成15年)9月に支部発足以来一回目の秋刀魚パーティーを開いてから今回で4回目になりました、名付けの親は発足準備時代から世話役である11期加藤さんでその時以来、開催場所も明石雑草園(加藤邸)でしたが今回も雑草の面影こそなくなりましたが従来どおり加藤邸の家、庭、駐車場を占拠させて頂き実施する事が出来ました、偏に加藤家の支部活動への理解とご協力の賜物であると、感謝しております。

今回の参加者は開催直前まで参加エントリーが増え続けて、今までにない20名の参加となりました、遠くは東京・関東2名、金沢2名、名古屋1名など近畿以外からの参加も目立ちました、本当に有り難い事です。

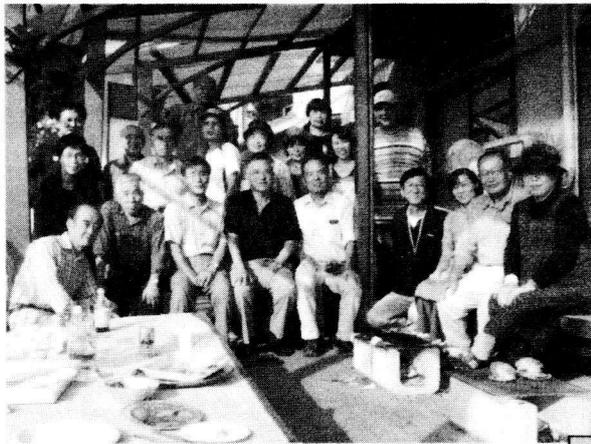
参加されるか開催を聞き知った有志の方の予想もしない差し入れ等も多く、食べ物も消化し切れず、翌日に持ち越すとか、体験発表も準備された人数とそのボリュームの多さから発表時間が不足して、発表も断念いただく場合も出るなどグルメも発表も準備過剰気味かとも思われますが、に充実した2日間となりました。

企画・イベント準備: 11期 加藤忠好 会場設営・食材調達: 11期 加藤智美

会計: 15期 高村千佳子 報告: 8期 篠島益夫

参加者

4期下出、5期金岩、6期小川、7期飯田、8期伊豫、篠島・節子、10期藤井、
11期森川、加藤・智美、井上和子、12期野村、15期間所・美智代、舟田節子、
金井、宇野、高砂篤子、高村千佳子 計20名



左・初参加の4期下出さん(中央)・計20名



手前の列-4期下出、7期飯田、5期金岩、11期加藤

園内の欲

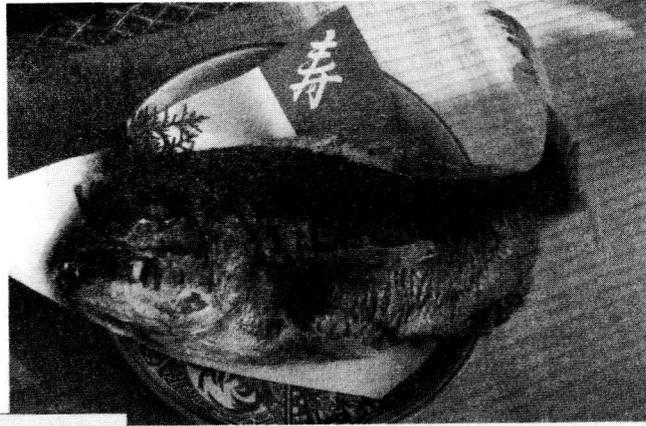
グルメなパーティも女性陣有ればこそ活躍



右・熟年カップルの恋の(鯛の)行方は



左・和装のせつちゃんポイントのお薄



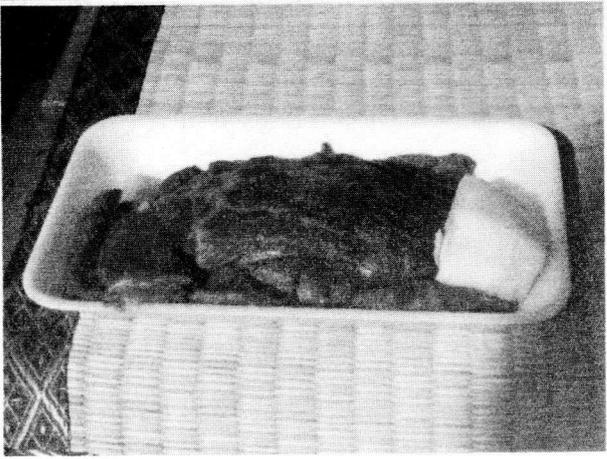
小川農園から寄贈のマツタケ(採取地は秘密)

グルメな食材

明石の金井漁業から寄贈の目出鯛(インド洋産)



右・淡路産の神戸牛(1人前パック150g)



～古希を迎えて、いっそう盛んなり～

3期 西尾皓史

ワングル創部時代に生きた古い渡り鳥は、そろそろ「古希」を迎えます。

白楽天は“人生七十古来稀なり”と言ったが、我々は学生時代にワングルで鍛えた強靱な体力のお陰で、みんなが「古希」を元気に迎えることができそうです。

「第1期～第4期OB会」は、1999年から毎年、場所を変えて開催しておりますが、徐々に参加メンバーが増える傾向にあり、今年の、第8回「伊那路をめぐる」2泊3日の旅には、19名のメンバーが参加し、松本城、木曾駒ヶ岳ロープウエー、諏訪、霧ヶ峰高原など、全員元気いっぱい歩き回ってきました。

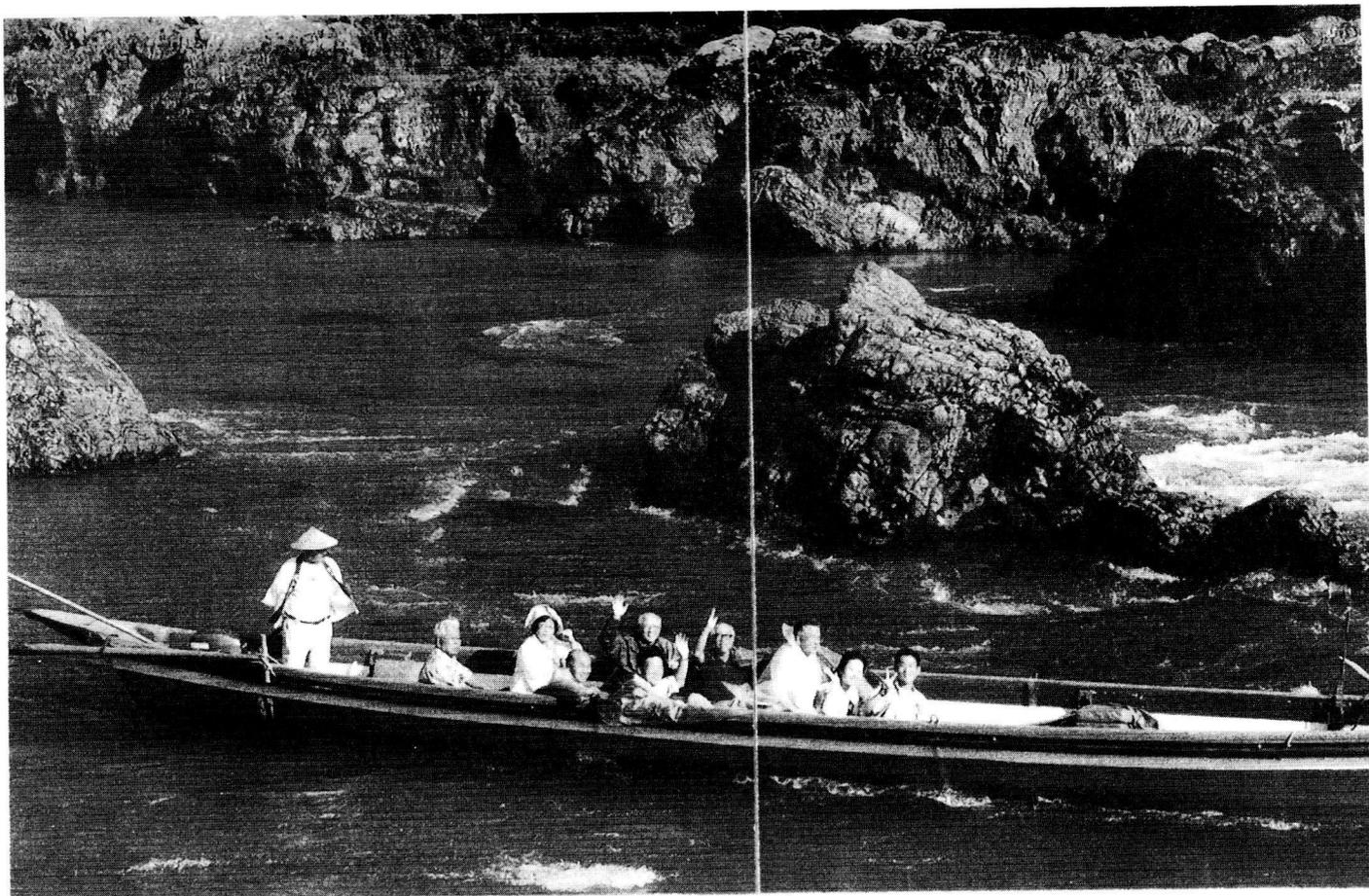
そして来年は、5月18.19.20日の3日間、「犬山城・明治村と中部国際空港を歩く」というテーマで、第9回「第1期～第4期OB会」の開催を予定しております。

そのため、名古屋在住の森島稔さん(第4期)が中心になって、先日(9月15.16.17日の3日間)、5名の渡り鳥が参加して「下見ツアー」を実施しました。

そのときの、日本ライン下りの写真を添付します。

メンバー全員が元気なので、「喜寿」を迎えるまで、場合によっては「傘寿」を迎えるまで、この企画を続けたいと思っております。

前から、下出、田村、森島、手前に小林、西尾の順です。



文責 奥名

11月という月ほど気まぐれな月はないのではなかろうか。夏の名残のような暖かな空気が南から吹き込むと半袖でも汗ばむ日があるかと思えば、雪になるのではないかと思えるほどの霰混じりの冷たい日もある。そうかと思えば澄み切った秋空が広がって、木々や草花の紅葉との鮮やかなコントラストにさわやかな晩秋の落ち着きを感じる日もある。恒例そしてやや高齢となった15期(昭和45年入部)会を開催した今年の11月3-4日はまさに秋日和といえる日となった。

-----お誘い-----

私たちが卒業してから30年近くの歳月が流れ、日本全国各地でも言えることですが30年前の面影を残すところは少なくなっています。金沢の街の新しい顔と古い顔を肴にして飲んで、食って、語りましょう。

日時：2006年11月3日(金) 祝日～11月4日(土)
 場所：金沢市内
 主催：奥名
 協力：皆さん

今回の参加者
 20名中22名(家族込み)

予想を上回る盛況で宿泊人数分が予定の旅館に確保できず、舟田邸へ女性一部が分宿となり、ご迷惑をおかけしました。(奥名邸にも一応寝る場所は確保しておいた)

行動予定

3日：喫茶エリー→石川門→金沢城公園→21世紀美術館→「あまつほ」にて宴会
 4日：梅の橋→徳田秋声記念館→ひがし茶屋街→主計街→泉鏡花記念館→ビストロとどろき

3日 AM 早朝

夜行バスで早朝金沢駅前に降り立ったM 縄君は浅電で内灘方面をウロウロ。かつて浅野川電気鉄道だった時分についた呼び名「あさでん」は北陸鉄道となったが今でもこの名が使われているのはうれしいことである。駅の東口も西口も変貌が激しく西側に住んでいる私は東口にはほとんど縁がなく、たまに行くとその都度様子が変わっていて驚くことが多い。他の皆さん(千葉 東京、神奈川 静岡 愛知 滋賀 大阪 兵庫)はそろそろ家を出発する頃。

3日 PM 1時 喫茶エリー

まだ大学が城内にあったころ石川門付近(部室から近い)の喫茶店といえば、「パーク」「ミカド」「コーヒー館」「白鳥」そして「エリー」といったところ。あのころのまま残っているのがこの「エリー」である。ソファはところどころ破れて、お運びさんも年季が入ってきた。いつまでも残っていて欲しいものだ。ここで合流したのは今回の中心人物となるU野君。早朝から歩きつかれたM 縄君は県立美術館でひと休みしている。

3日 PM 2時 石川門 金沢城公園

急遽決定した企画「美しい金沢のわたし」

キャッチフレーズ

きものの似合う街、金沢へようこそ!!
 そして、地元の方も是非、古都をきもので歩いてみませんか?

「金沢きものパスポート」



並木町(元橋場町)舟田邸にて着付け、その後この金沢城もと我々の時代のキャンパスに集合。



途中大手門あたりで予想通り外国人に捕まったもよう。しかしその詳細は不明。待つことしばし。しかし心配性のM 縄君には長い時間と感じたようでなかなか到着しない彼女らを思って落ち着かず。自分が疲れていたためひどく思えたのだろう。優しいやつだね。

(←二の丸広場にて)

久しぶりで訪れた城内のあまりの変貌ぶりに以前の様子を思い出せないでいた。金沢城のガイド(まいどさん?)の尋常でない説明に一同笑いながらもやや啞然とした。M 林君登場。先ほど電話したときにはまだ家にいたというのに。

3日 PM 3時 いもり坂を下り、市役所をぐるりと回って柿木畠へ

大家族M 田(なんでこんなにMばかりなのだ)家二人娘と奥様、S 木、M 宅君などあらかた集まる。最後に残ったのはM 下君だ。電話するとまだ山中温泉に浸かってレセプトなるものを作っているという。医者という商売もこれでなかなか大変なようで、それにひきかえサラリーマンは気楽だね。宿での着付け申ししばし歓談。

3日 PM 4時30分 21世紀美術館

高尚な趣味を持つものが多いので先ずは2年ほど前に付属小中学校跡地にできた金沢21世紀美術館へ出向く。ここは21世紀と名乗るだけあって従来の美術館とは趣が違ふ。建物自体平べったい円形をしていて美術館だぞという



威張ったところがない。ふだんは夜8時まで営業している。

展示物はあまりよく覚えていないほど素晴らしいものだった。よくわからんものもずいぶんあったが……。奈良美智さんの目のつりあがった少女の絵、新作「Moonlight Serenade・月夜曲」が注目の作品である。妙なものがいくつもあったがきっと覚えている人はいないであろう。外へ出るともう日は落ちていた。

3日 PM 6時 旅館へ戻る しばし歓談

最後のひとりM 下君が登場。そして一番先に戻ることになっている。医者はつらいね。

3日 PM 7時 「あまつぼ」にて宴会

大勢で集まるには「あまつぼ」はいいかもしれないが、今回の22人はやや中途半端な人数だったのか向かい合わせの長い御膳がならび、端から端まで随分距離があって酔ってしまうととても行けそうにないほどだ。それぞれに近況を披露し、心地よい酔いがまわってくる。U 野君はつい先頃までひとりで淋しがっていたはずなのに、いつのまにか埋め合わせしておつりが来るようなことになっている。まあいいか。

宿に戻り、全員がそろったばかりであるのに、もうM 下君は帰る。そして大阪からやってきたS 木君も早朝3時の「きたぐに」で戻るという。最後まで起きて、酒と共に付き合ってくれたのは誰だか知らないが、ありがとう。持つべきものは友ですな。

4日 晴れ 東山界隈散策

並木町舟田邸再度集合、駐車スペースもぴったり。
AM9時

まだどこも開いていないのでゆっくり浅野川沿いに梅の橋へ向けて歩く。川面ではカルガモが遊んでいる。土手沿いにはツワブキの黄色い花が大きなまるとともに美しい。映画やテレビドラマによく使われる梅の橋はこの日も俳優さんや撮影スタッフと観光客とでにぎわっていた。

お嬢さん2人は数日前金沢駅東口にオープンした金沢フォーラスへ。



002935



徳田秋声
記念館
金沢市

橋を渡ってすぐ右手に建つ「徳田秋声記念館」。館長であろうか分かりやすい解説にこれまであまり知らなかった徳田秋声という人の一面を知る。「あらくれ」ぐらいしか読んだことがなかったが、それもほとんど覚えていない。少し読んでみるかなどと思ったりもした。

このとき何人かは二日酔いに苦しんでいたという。
そう言えばおとなしかったな。

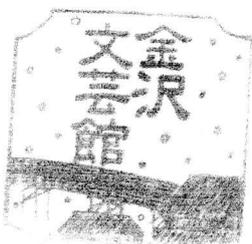
ひがし茶屋街へ向かう。途中何名かはぐれる。

さすがに観光名所のひとつで次第に人が多くなり、わずかな古い町並みは人で溢れてきた。お土産を買ったり記念写真を撮ったり金沢に住んでいながら観光客気分であった。30年ほど前、社会人になった年に初めてその職場の所長に連れてきてもらった。そこがどの店か良く覚えていない。入るなり急で狭い階段を登ったこと、

そこで飲んでいるときに三味線の音が聞こえていたこと、わずかに隙間の開いたふすまの向こうに赤く怪しげな大きな蒲団が見えていたことなどは覚えている。そのときは30分ほどして帰れといわれた。

銭湯「東湯」を確認後、主計町へ向かう。子供の遠足同様目に付いたものがあると立ち止まってしまう。団体行動が取れず全員なかなかそろわない。浅野川大橋を渡ったところでM宅君と別れる。久しぶりに奥さんと金沢でデートだという。主計町というところはかつての花街であるが、あまり人は多くなく静かで落ち着きがある。道はやっと人すれ違えるほどの幅しかなく、家々はつながってくつきあっている。隣近所の生活が丸見えの様で今時の人にはストレスがたまってしまうかもしれない。そんな町に「くらがり坂」と呼ばれる坂があり、遊びに行く旦那衆が通った坂という。ここは夕暮れ時が風情があって似つかわしい。

この坂を上ると泉鏡花の生家を記念館とした「泉鏡花記念館」がある。なかはあまり広くないが凝ったつくりになっていた。歩きつかれていたがもう少しゆっくり見学していたかった。



浅野川を再び渡り、元銀行の建物だったという大正ロマンを感じさせる「ビストロとどろき」でランチをとる。ハヤシライスのご飯の量がやたらと多かった。相当おなかがすいているように見えたのかもしれない。



泉鏡花記念館

Izumi Kyoka Kinenkan Museum

食後解散。皆さんありがとう。また会いましょう。